

地区別防災カルテ 4. 中央地区

地区名：中央地区

地区番号：4

平成24年度作成

○地区の構成

新鎌ヶ谷1～4丁目
初富本町1～2丁目
南初富4～6丁目
富岡1～3丁目
道野辺本町1～2丁目
道野辺中央1～5丁目
中央1～2丁目
右京塚

○地区の概要

(位置)中央地区は、市の中心に位置し、西部、北部、南部、中央東、東部地区に隣接する。
(地形)地区の大部分がローム台地である。
(土地利用)地区内の土地利用は、初富、鎌ヶ谷の各駅周辺の市街地、新鎌ヶ谷駅を中心とする市の中心的な市街地に大別される。
(交通)幹線道路としては、千葉ニュータウン方面と東京地区を結ぶ国道464号、市内を東西に通過する主要地方道千葉鎌ヶ谷松戸線、そして、市内の南北を通過し、船橋方面と我孫子方面を結ぶ同船橋我孫子線が広域的な通過交通を処理するとともに地域における中心的な道路となっている。
鉄道は新鎌ヶ谷、初富、鎌ヶ谷の各駅が利用圏である。また、新鎌ヶ谷駅の利用により、松戸・柏・船橋・津田沼方面のみならず東京方面へのアクセスが可能である。

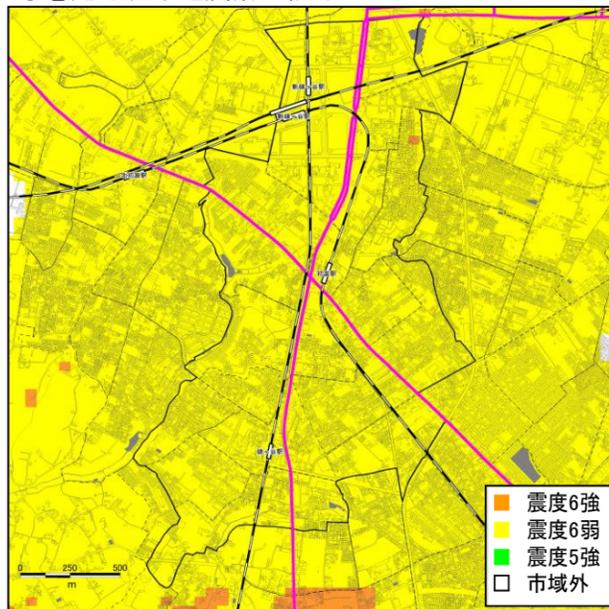
○地区の位置図



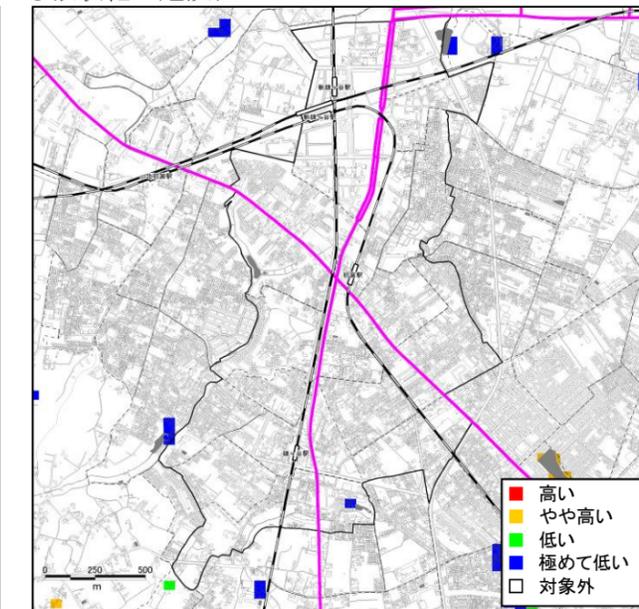
○社会条件

0～14歳	3,640 人	15.1% (対地区)	65歳以上 0～14歳 15～64歳
15～64歳	15,993 人	66.3% (対地区)	
65歳以上	4,500 人	18.6% (対地区)	
人口(合計)	24,133 人	22.2% (対全市)	棟
人口密度	8,938 人/km²		
世帯数	10,461 世帯	23.1% (対全市)	
建物棟数			
木造	昭和36年以前	126 棟	2.0% (対地区)
	昭和37～56年	1,692 棟	27.0% (対地区)
	昭和57年以後	3,363 棟	53.6% (対地区)
非木造	昭和45年以前	33 棟	0.5% (対地区)
	昭和46～55年	175 棟	2.8% (対地区)
	昭和56年以後	885 棟	14.1% (対地区)
建物(合計)		6,274 棟	19.1% (対全市)

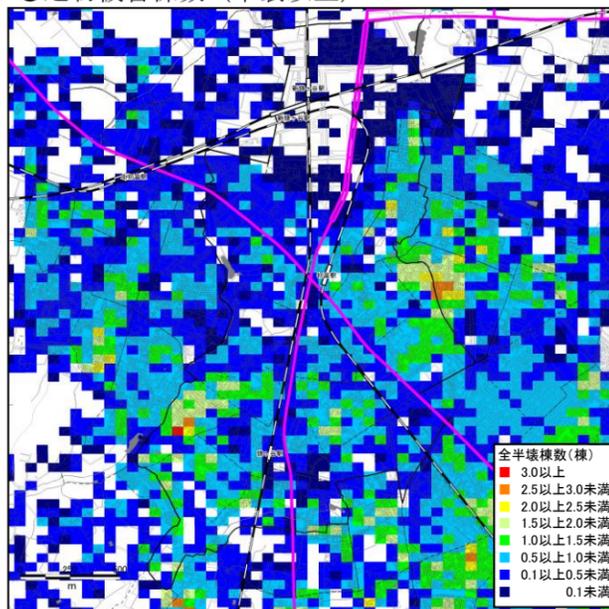
○災害予測の結果(図)
＜鎌ヶ谷市直下地震(Mw7.3)の場合＞
●想定される地震動の強さ



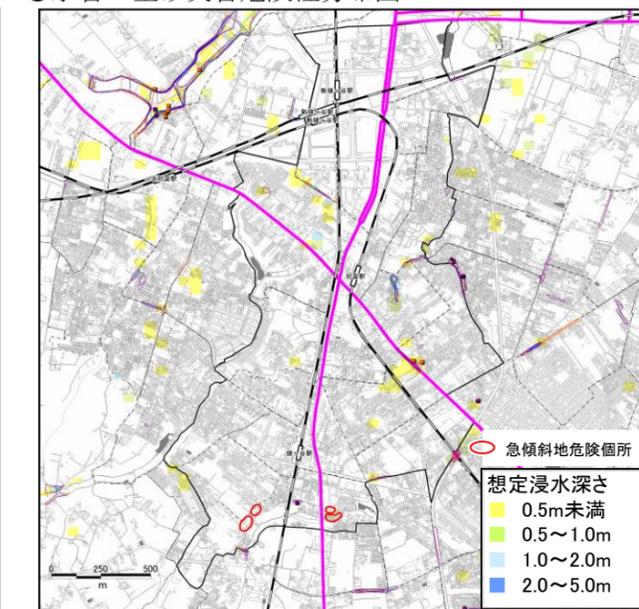
●液状化の危険性



＜鎌ヶ谷市直下地震(Mw7.3)の場合＞
●建物被害棟数(半壊以上)



＜水害・土砂災害の場合＞
●水害・土砂災害危険性分布図



○防災関連施設

避難場所	屋外収容人数	広域避難場所	屋外収容人数	高齢者福祉施設
鎌ヶ谷小学校 中部小学校 鎌ヶ谷中学校 道野辺保育園	3,919 人 3,443 人 5,368 人 1,203 人	(※下線は臨時ヘリポート設置予定地)		ランタナ(楠TBケア)(通)、新鎌ヶ谷ケアセンター そよ風(通)、鎌ヶ谷市中央在宅介護支援センター(訪)、初富在宅介護支援センター(訪)、ニチイケアセンター鎌ヶ谷(居)、やすらぎ家 鎌ヶ谷亭(訪)、グランシア鎌ヶ谷(介)、高齢者住宅コミュニティホーム鎌ヶ谷(通)、ウイング鎌ヶ谷中央一番館(サ)、ほがらか(有)
耐震性貯水槽・防災倉庫	中部小学校(貯水槽)、鎌ヶ谷市役所(防災倉庫)、鎌ヶ谷小学校(防災倉庫)			(介):介護付老人ホーム、(通):通所介護、(居):居宅介護、(グ):グループホーム、(特):特別養護老人ホーム、(訪):訪問介護、(サ):サービス付高齢者向け住宅、(有):有料老人ホーム、(リ):通所リハビリ、(共):共同生活介護
消防署	消防本部、中央消防署			障害者福祉施設
消防団施設				鎌ヶ谷市身体障害者福祉センター 地域活動支援センター鎌ヶ谷工房 福祉作業所友和園(第二友和園) 児童ホーム
警察署・交番・駐在所	鎌ヶ谷警察署、鎌ヶ谷駅前交番、新鎌ヶ谷駅前交番			鉄道(駅名)
病院(医科)	鈴木整形外科、倉橋産婦人科、斎藤医院畑医院、内藤耳鼻咽喉科医院、畑医院、内藤耳鼻咽喉科医院、十河産婦人科医院、高橋内科整形外科、初富耳鼻咽喉科、堀江皮膚科医院、宇野眼科、庄司内科医院、鎌ヶ谷医院、ひまわり眼科、三田医院、山内クリニック			新京成電鉄(新鎌ヶ谷駅、初富駅) 北総線(新鎌ヶ谷駅)、東武野田線(新鎌ヶ谷駅、鎌ヶ谷駅) 指定公共機関等(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ鎌ヶ谷営業所 日本赤十字社千葉県支部鎌ヶ谷地区、鎌ヶ谷郵便局
保育園・幼稚園	道野辺保育園、かまがや幼稚園			
学校	鎌ヶ谷中学校、鎌ヶ谷小学校、中部小学校			

○近年の災害履歴(平成20年～24年)

水害	平成20年4月8日大雨(道路冠水2件)、平成20年8月30日大雨(床下浸水2戸、道路冠水2件)、平成21年10月5～8日大雨・台風18号(道路冠水1件)、平成22年9月8日台風9号(道路冠水6件)、平成22年9月13日大雨・洪水(道路冠水2件)、平成22年12月3日大雨・洪水(床下浸水1戸)
土砂災害	

○災害予測の結果(概要)

項目	主な予測結果	危険度評価 →高い	概要
地震の揺れの強さ	平均震度6弱		強い揺れが予測されている。
液状化の危険性	低い		液状化の危険性は極めて低い
建物被害	全半壊率7.4%		木造建物中心に被害が予測される。
延焼(冬18時)	建物焼失割合1.2%		住宅密集地を中心に延焼が広がることが予測される。
人的被害(冬18時)	死傷者予測数85人		主に建物被害による負傷者が予測される。
水害の危険性	他の地区と比較して低い		凹地などを中心に浸水や道路冠水の事例がある。
土砂災害の危険性	地区の南部に4箇所		土砂災害危険箇所では住宅被災の危険性がある。